

令和5年度 佐渡市博物館協議会 評価票

資料No.5

博物館協議会における目的・方針

目的	博物館の運営状況について評価を行なうとともに、その結果に基づき博物館の運営改善を図るため必要な措置を講ずる。
方針	博物館が主管する事業の計画・実行・評価・改善に関することや所管施設に関すること等について、博物館館長および職員とともに考え活性化を図る。

- 職員及び委員評価欄に、方針の達成度をA～Dの記号で記入。
- A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：努力を要する
D：成果がない

評価項目	目標 (数値目標または行動目標)	計画		実績	評価			
		ねらい	具体的方策	数値等	成果と課題	自己評価	意見(協議会用)	協議会評価
利用状況	・博物館及び資料館の来館者数 R8:66,000人(佐渡市総合計画より) →R5目標:48,180人 (参考) R4目標:42,240人 R4実績:41,927人	・各博物館、資料館の利用を促進する。	①佐渡博物館 ②両津郷土博物館 ③相川郷土博物館 ④佐渡国小木民俗博物館 ⑤新穂歴史民俗資料館 ⑥相川技能伝承展示館 ⑦史跡佐渡奉行所跡 ⑧畑野鳥越文庫 ⑨佐渡植物園 ⑩幸丸展示館 ⑪日本アマチュア秀作美術館	①5,924人 ②1,984人 ③0人 ④12,425人 ⑤2,403人 ⑥3,021人 ⑦16,798人 ⑧371人 ⑨集計無し ⑩集計無し ⑪集計無し 計:42,926人 (R6.2末時点)	R5はR6.2末時点での実績となるが、R4の来館者数を上回り、引き続き回復傾向にある。佐渡市総合計画に掲げるR8:66,000人から逆算したR5目標値:48,180人には届かない見込みとなっているが、相川郷土博物館の耐震改修工事に伴う入館者数の減少を考慮する必要があるとともに、情報発信の強化により利用促進を進めていく必要がある。	B	・佐渡金銀山の一般の方の疑問に対応できる場があるとありがたい ・情報発信の強化と共に利用促進を望む ・学校教育の中にこれらの博物館施設の利用を位置付ける	B
情報発信	・各博物館の利用を促進するため、効果的な情報発信により博物館に興味関心を持ってもらう。	・博物館広報活動がどの程度成果をあげているか検証する。	・市SNSでの投稿頻度を高める。	SNS投稿回数:13回 ホームページ閲覧数 42,660PV(R6.2末時点) 参考:R4年度 39,034PV	・市SNSで「佐渡植物園の花だより」として13回の投稿を行った結果、佐渡植物園ページの閲覧数がR4では895PVだったものがR5は1,845PVまで増加していることが確認できた。しかしながら、実際の訪問にどれだけ繋がっているかの指標とは言えないため、指標の設定方法を含め、引き続き検証を続ける必要がある。	B	・SNSは求める人に有効 ・不特定多数の興味ない人に対し、メディアへの発信、看板チラシは有効 ・一般車の情報収集手段はSNSの利用が大きいと思われる。YouTubeの活用も含め積極的な発信を ・ホームページの情報が少ないので更なる充実が必要 ・資料データなどの公開が必要 ・植物園の花だよりはもっと回数を増加させ、ブログなどで情報発信する	C
資料管理	・資料管理が適切に行われているか ・資料収集が適切に行われているか	・貴重な資料を後世へ受け継ぐ。	・展示環境、収蔵環境の温湿度管理や台帳を作成して資料整理をする。 ・これまでに収集した資料が展示や事業で活用可能か不要か整理する。	・毎日、1日3回温湿度管理や台帳を作成。 ・資料収集3件	・展示環境、収蔵環境の温湿度管理や台帳を作成して資料整理を行えた。 ・収集した資料の整理を行っている状態で資料が展示や事業で活用可能か、不能かについてすべて整理ができている状態では無い。今後の課題として、収集した資料を活用するまでのプロセスを考え取り組む。	C	・資料の保管と管理が充分か不安 ・引き続き資料の現状調査を進めてほしい	C
調査研究	・研究報告書件数 1件	・調査研究を通じて資料等への理解を深めるとともに、展示や情報発信へつなげる。 ・学芸員としての資質向上を図る。	・研究ノートの発行	学芸員5名が執筆した研究ノートを発行する。	令和5年度末に研究ノートを発行予定。研究ノートを執筆するにあたり、学芸員各々の研究テーマに向けて調査・研究・考えをまとめ地域に還元する機会になった。今後の課題として、展示内容にも反映できるようにする。	B	・研究ノートの継続発行を求める ・自然分野ではジオパークの研究報告と統合して一元化してはどうか	B
展示	・企画展開催数 R1:16企画展 R4:14企画展 ・来場者数 R1:12,617人 R4:15,617人	・佐渡の歴史・自然・文化に対する興味関心を高めるとともに、文化の保存に対する意識を醸成する。	計画: 11企画展 ①佐渡の美術・工芸―小品の世界―(佐博) ②春をことほぐ(佐博) ③記録写真 あの日あの時の佐渡1(昭和後期)(両博) ④佐渡国小木民俗博物館の歩み(小木博) ⑤佐渡の植物と牧野富太郎(植物園) ⑥山野草展(植物園) ⑦雪割草展(植物園) ⑧渡辺治写真展(新穂資) ⑨新穂資料館収蔵品展(新穂資) ⑩考古学からみた佐渡の中世(新穂資) ⑪裂織展(新穂資)	実施:9企画展(未実施②④) ①527人 ③465人 ⑤550人 ⑥248人 ⑦3/23・24実施 ⑧520人 ⑨306人 ⑩693人 ⑪547人 計画外実施:4企画展 ○牧野富太郎検閲標本(佐博) 943人 ○手わざ図鑑-佐渡の手仕事-(両博) 432人 ○ウチョウラン展161人 ○土屋忠司遺作展340人	・企画展の実施については、当初予定していた企画を実施できなかった部分もあり、計画の見通しの甘さがあった。 ・展示についても、調査・研究による内容の充実を図らなければならないが、世間の話題性に助けられた部分が目立った。 ・植物園のパネル展では当企画によって初めて来園したという方が多数見受けられ、企画実施の効果があった。	B	・植物園のパネル展を評価したい ・企画展の宣伝、PRのあり方についても一考願いたい	B

令和5年度 佐渡市博物館協議会 評価票

資料No.5

博物館協議会における目的・方針

目的	博物館の運営状況について評価を行なうとともに、その結果に基づき博物館の運営改善を図るため必要な措置を講ずる。
方針	博物館が主管する事業の計画・実行・評価・改善に関することや所管施設に関すること等について、博物館館長および職員とともに考え活性化を図る。

- 職員及び委員評価欄に、方針の達成度をA～Dの記号で記入。
- A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：努力を要する
D：成果がない

評価項目	目標 (数値目標または行動目標)	計画		実績	評価			
		ねらい	具体的方策	数値等	成果と課題	自己評価	意見(協議会用)	協議会評価
資料活用	・資料特別利用件数 R1:67件 R4:41件 ・資料撮影件数 R1:47件 R4:18件 ・資料貸出件数 R1:7件 R4:10件	・資料を活用した歴史文化への理解の促進、興味関心を高める。 ・博物館への利用を促す。	・資料特別利用申請に対応 ・資料撮影、貸出しに対応	特別利用 50件 撮影件数 32件 資料貸出 9件	・他館への資料提供により、一定の繋がりを構築できた。 ・資料の貸出の大半が企画展等展示目的であったが、今年度は調査・研究目的の貸出もあり、その成果(R6.1末時点で未提出)を今後の当該資料の活用に活かしていきたい。 ・特別利用や撮影(館外観の撮影含)により、外部への広報の一助となったが、新しい情報の発信という部分には至らなかった。	B	・資料利用事例の共有データベース化を求める(研究者ネットワークも作れる) ・他博物館から資料を借用しての展示はできないものか	B
教育普及	・出前授業数 R2:12件 R4:20件 ・各施設でのイベント実施件数 3件 (文化振興アクションプランより) ・ワークショップ開催数 6件 (文化振興アクションプランより)	・佐渡の歴史・自然・文化に対する興味関心を高めるとともに、文化の保存に対する意識を醸成する。	①出前授業の実施及び宣伝 ②博物館を通じたワークショップやイベントの実施 ③学芸員による解説会等の実施 ④ジュニア学芸員養成講座の実施	①8件 ②7件 ③6件 ④6回	・出前授業については、学校側のニーズ(内容よりも時間的な部分)が合わないところがあった。 ・企画展内での展示解説だけでなく、現地での解説や資料の取扱いなどの講座により、参加者の意識の向上・再認識に繋がった。 ・地域の方に教育機会を与え、講座の内容に関する受講者の満足度も高かった。	B	・努力されている ・例年並みかそれ以上の取組でよかった ・少人数の職員で専門外の仕事や数多くの展示等精力的に取り組んでいると思う ・植物園ボランティア活動は、植物好きの方による友の会等を設立して定期的に活動できるようにしてはどうか ・教育普及に関しては、もっと民間の研究者と連携してはどうか	B
地域連携	・地域との連携活動が行われ、地方博物館としての役割が果たされているか	・博物館を通じて地域住民の交流や地域活性化を促進し、地域から愛される博物館を目指す。	・地域と共同した取り組みを行う。	泉地区の地域で活動されている平泉文化財保存会と協働した文化財探訪ツアーを実施した。(参加者24名)	地域の方とは準備から、当日のツアー実施まで連携し今回の企画を進めた。また、文化財等の重要性を伝えることができた。今回は募集人数を上回る応募があったため参加できない方が多かった。次回は開催日数を増やし、多くの人に文化財等の重要性や調査研究した内容を解説したい。	B	・大変評価できる ・各地域での連携促進を進めたい	B
施設の維持管理	・来館者が観賞しやすい館内環境ができているか	・展示の鑑賞に集中してもらうための快適な環境を整備する。 ・資料を適切に保存し、後世へ受け継ぐ。	・施設に応じた個別対応を行う。	施設に応じた小規模修繕等を行った。	日常の維持管理に加え、小規模修繕等についても、予算に限りがあることから、可能な限り職員で対応できる部分は職員が対処するよう努めた。 しかしながら、施設の老朽化が著しいため、抜本的な対策を講じることはできていない。	C	・クラウドファンディングなど外部資金導入を検討できないか	C
中長期的計画	・中長期的な博物館展示、事業計画が作られているか ・計画通りに博物館運営が行われているか	・市民等に対し新しい発見や楽しみ、感動を与える存在となるよう、持続的な運営を目指す。	3年から5年後までの展示および事業計画を作成する。		博物館の全体構想となる「博物館ビジョン」の策定が滞っている。今一度、課題等を整理の上、令和6年度は策定の作業を進める。	D	・博物館ビジョンの作成を望む ・至急の策定を ・世界遺産、ジオパーク、世界農業遺産との関係を密にし、思い切った枠組みを新たに創り出したらどうか	D